

気化式加湿機

HSE551

取扱説明書

このたびはシズオカの気化式加湿機をお買い上げいただきまして、
まことにありがとうございます。




- お使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、製品を正しくお使いください。
- 取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見ることができるところに大切に保管してください。


もくじ


まえがき	1
1. 特に注意していただきたいこと	2
2. 各部の名称と機能・安全装置の説明	3
3. 初めてお使いになる方へ.....	4
4. 使用方法	6
5. 点検方法	7
6. 定期点検	8
7. 故障・異常時の処置.....	8
8. 仕様	9
9. 安全ラベルの一覧.....	10
10. 保管	11
11. アフターサービス.....	11

まえがき

◆ この取扱説明書には、この製品を安全に、正しくお使いいただくため、必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。その注意事項は△**危険**、△**警告**、△**注意**に区分されています。表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。

 **危険** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。

 **警告** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の可能性が想定される内容を表示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

※ 「△**注意**」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1 特に注意していただきたいこと

安全のため、必ずお守りください。

* 下記の項目は、この製品をお使いいただく上での重要な安全事項が書かれています。ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険

1. アースコード未接続での使用禁止

- 感電防止のため、アースは必ず取りつけてください。また、漏電ブレーカを設置したコンセントを使用してください。
- アース線は、ガス管、水道管、避雷針用アース線、または電話のアース線に接続しないでください。
- アースが不完全な場合は、感電する恐れがあります。アース線は、アース接続ネジに確実につないでください。

2. 水のかかる場所での使用禁止

屋外、および水のかかる場所では使用しないでください。また、濡れた手でスイッチを操作しないでください。感電するおそれがあります。

3. 異常時使用禁止

異常を感じたとき（異音、漏水、焦げ臭い等）は、すぐに運転を停止してください。異常のまま運転し続けると、重大な故障、感電、火災の原因になります。

4. 電源コード破損状態での使用禁止

電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり挟み込んだり、加工しないでください。また、電源コードの上に重いものを載せないでください。コードが破損して、火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

1. 回転物への接触禁止

吹出口や吸込み口に指や棒などを絶対に入れないでください。回転部に触れて、けがをするおそれがあります。

2. 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。故障や火災の原因になります。また、分解・修理はしないでください。修理はお買い上げの販売店または、弊社へご相談ください。

3. 給排水接続不備での使用禁止

給排水接続は確実に行ってください。接続に不備があると、漏電または、周囲をぬらす原因になります。設置は万が一に備え、なるべく漏水の被害を受け難い場所を選んでください。

4. 電気部品への水掛禁止

電気部品に水をかけないでください。排水タンクを取り出すときや、加湿エレメントなどの清掃のとき、電気部品に水がかからないようにご注意ください。電気部品の絶縁が劣化し、感電の原因になることがあります。

⚠ 注意

1. 吸込み側の空間確保

本体の吸込み側は十分に空間をとってください。(50cm以上) 吸込み側を壁面その他の障害物に近づけすぎると風量不足となり、性能低下のおそれがあります。

2. 傾斜設置での使用禁止

本体を水平に保ってください。5度以上傾けると、水が漏れるおそれがあります。

3. 水道水以外の使用禁止

水道水をご利用ください。井戸水、工場用水を使用すると臭気発生の原因となります。

4. 排水タンクの水、放置禁止

1日に1度は、排水運転を行い、排水タンクの水を必ず排水してください。放置すると、腐敗や微生物増殖により、臭気を発生するおそれがあります。(排水タンクへ排水する場合)

5. 運転中移動禁止

運転中は本体を動かさないでください。貯水タンクから水がこぼれ、床面を濡らすおそれがあります。

6. 周囲環境の注意

粉塵が舞う、あるいは油が浮遊している環境で使用しないでください。故障の原因となります。

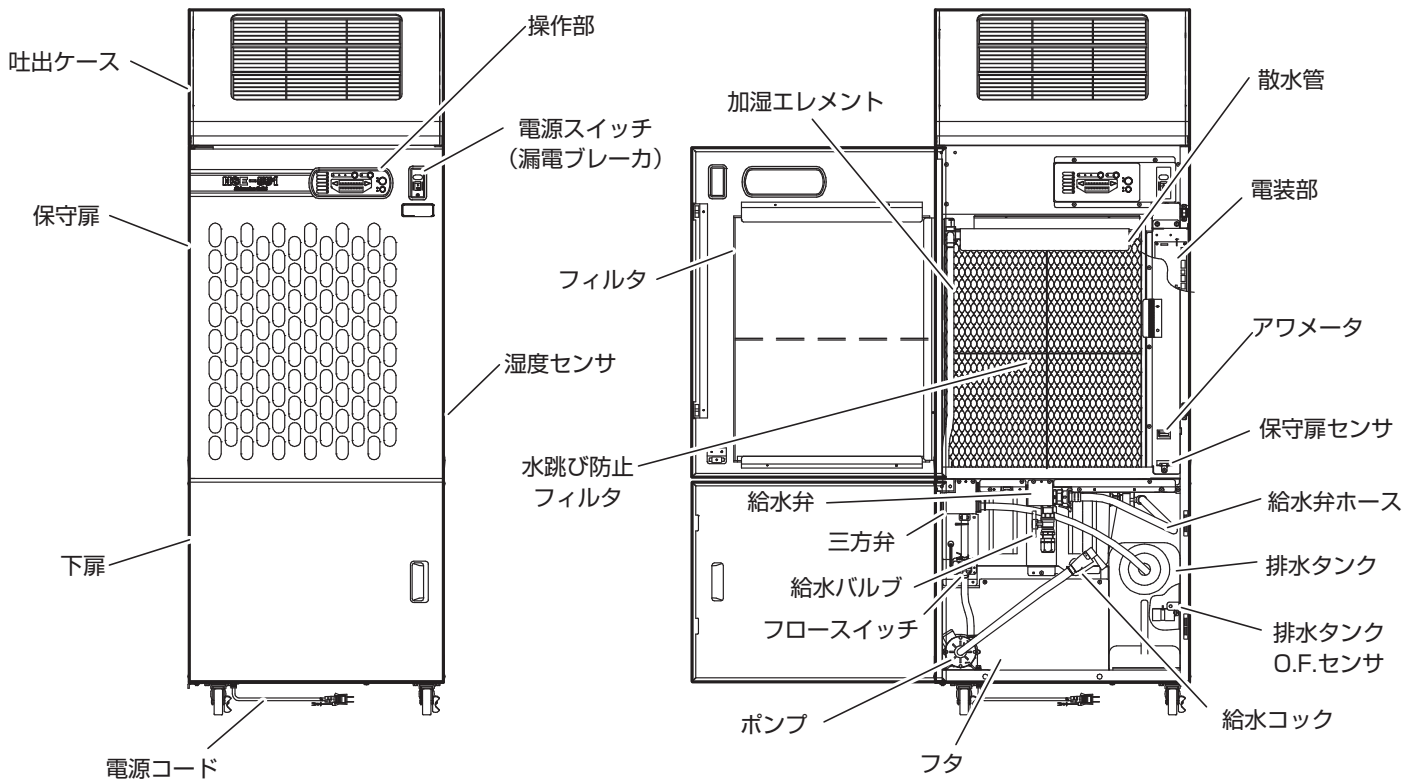
7. 給水圧力の注意

給水圧力は0.1MPa以上-0.5MPa未満にして接続してください。

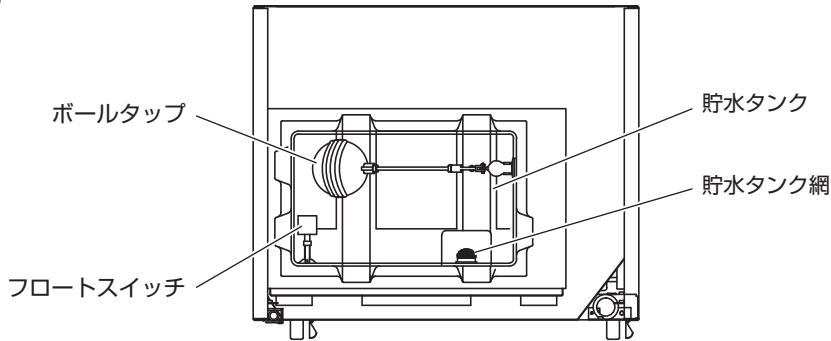
- 水圧が低いと給水弁が開かず、給水されません。
- 水圧が高いとオーバーフローの原因になります。



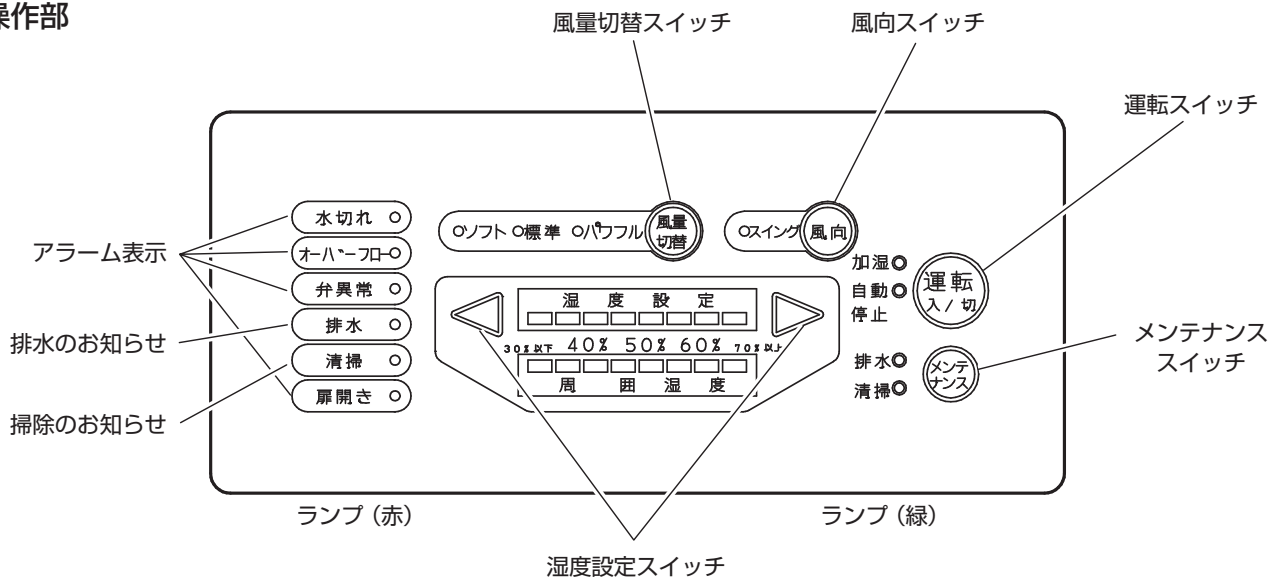
2 各部の名称と機能・安全装置の説明



● 貯水タンク内部



● 操作部



安全装置	● 水切れ検知（フロースイッチ）	水が流れないと、フロースイッチが水切れを検知。 作動状態：「水切れ」ランプが点灯し、自動停止運転へ移行。
	● 排水タンク オーバーフロー検知（排水タンク O.F. センサ）	排水タンクの満水を検知 作動状態：「オーバーフロー」ランプが点滅し、自動停止運転へ移行。
	● 貯水タンク オーバーフロー検知（フロートスイッチ）	貯水タンクの満水を検知 作動状態：「オーバーフロー」ランプが点灯し、自動停止運転へ移行。
	● 弁切替異常検知	三方弁の切替異常を検知 作動状態：「弁異常」ランプが点灯し、自動停止運転へ移行。
	● 保守扉開検知（保守扉センサ）	保守扉（上扉）が開いていることを検知 作動状態：「扉開き」ランプが点灯し、全停止。
	● 過電流保護（ヒューズ）	電気系統に過電流が流れると電気回路を遮断 作動状態：全停止。
	● 漏電ブレーカ（電源スイッチ）	電気系統に過電流が流れると電気回路を遮断 作動状態：全停止。
	● 送風ファンモータ過熱保護	モータに過電流が流れ、過熱すると電気回路を遮断 作動状態：モータファン停止。冷えると自動復帰
機能	● 自動排水、手動排水の選択	排水動作を自動で行うか、手動で行うかを選択できます。出荷時は手動の設定。制御基板上の切替スイッチ Bit1 を ON にすると、8 時間ごとに自動排水します。詳細は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社営業所（巻末参照）にご相談ください。

3 初めてお使いになる方へ

3-1. 本体設置

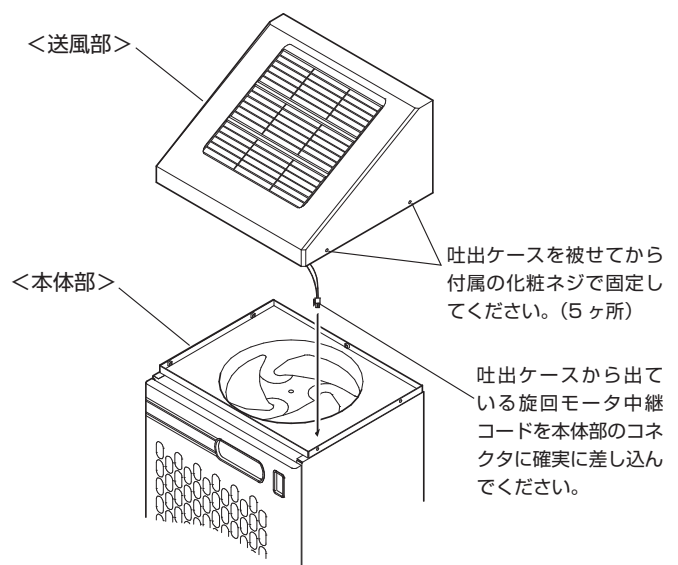
- 据付では、本体の右側は 30cm 以上の空間をとってください。

設置後、本体が容易に動かないように固定してください。（アイボルトで壁に固定する事をお勧めします。）
 本体には移動用のキャスタがついていますが、運転中はキャスタのストッパをかけてください。

● 組付け

吐出ケースを本体の上に乗せます。吐出ケース前方を少し持ち上げ、旋回モータ中継コードを本体コネクタ（右前）に接続します。
 付属のネジを 5ヶ所締めます。（右図）

※ 化粧ネジは強く締めないでください。破損するおそれがあります。



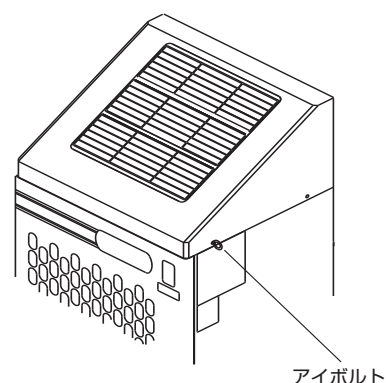
3-2. 本体の固定方法（地震などによる転倒防止）

次のような市販品をご用意ください。

- M8 アイボルト ● 壁固定用金具 ● チェーン

- 1 左右の化粧ネジを各 1ヶ所ずつ外してください。
- 2 M8 のアイボルトを締めてください。
- 3 アイボルトと固定金具をチェーンでつないで、本体をしっかりと固定してください。

※ 固定金具は、壁にしっかりと固定してください。
 ※ チェーンは、幅が 20mm 以下、接続にはチェーン止め金具が利用できます。



3-3. 給排水接続の方法.....

注意

- ホースは確実に接続してください。
- 給水は必ず適正な水圧でお使いください。**0.1MPa 以上 0.5MPa 未満** 給水弁が開かない、あるいはオーバーフローの原因になります。
- 水が凍結する環境ではお使いにならないでください。ホースや部品が破損するおそれがあります。休止中は、水抜きを行ってください。

接続時の注意事項

● 給水圧範囲

0.1MPa 以上 0.5MPa 未満
水圧が高い場合は、減圧弁をつけてお使いください。

● 給水の接続

★ 必要な工具：30mm スパナ

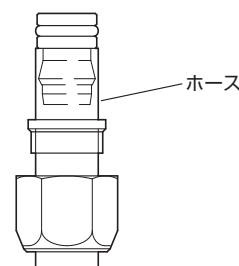
内径：15mm，外形：22mm のホース

※ 耐圧ホース以外は、使用しないでください。

- 1 ホースを本体側板の穴に通してください。
- 2 ホースをブレードロック（付属品）に右図のように通します。
- 3 ブレードロックにホースを差し、ナットを締めます。（工具を使い、しっかりと締めてください。）

● 凍結のおそれ

運転休止時に凍結のおそれがある場合は給水ホース内の水抜きを行ってください。給水ホースの途中に水抜き用のコックを組み込むことをお勧めします。

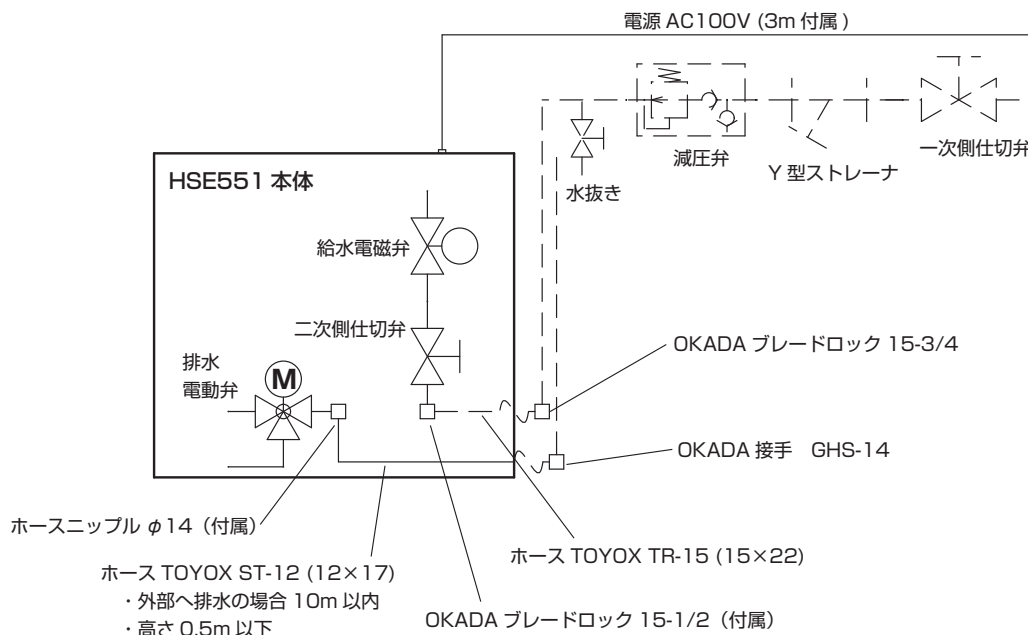


● 排水（排水タンクに排水しない場合）

- 1 排水タンクは、外さないでください。センサーが作動します。
- 2 外部への排水は 10m 以内、高さ 0.5m 以下で、凍結や逆流のおそれのない経路へ行ってください。

● 推奨する配管

- ・点線部分は付属していません。
- ・Y型ストレーナは異物混入の恐れのある場合に取付けてください。
- ・減圧弁は 0.5MPa 以上の高い水圧の場合に取付けてください。
- ・本体には外力が掛らないように接続し、抜ける恐れのない継手を使用してください。
- ＊配管からの漏水防止は、ユーザ様の責任で管理して頂きますようお願いいたします。



4 使用方法

■ 使用時の注意事項

★ 運転前チェック（電源を切った状態でチェックしてください。）

- 本体が水平で、キャストのストッパが固定されていますか？
- 電源コンセントとアースの接続は、確実に行われていますか？
- 本体または給排水管から水漏れはありませんか？

★ 運転時の注意

- 試運転時に給水せずに運転すると、ポンプから“キュルキュル”という音がすることがあります。これを繰り返すとポンプの寿命に影響しますので、すぐに給水してください。
- 初めてお使いになる場合、水が供給されないと、運転スイッチを押して約2分で水切れランプが点灯することがあります。この場合は、運転スイッチを押して再運転してください。また、貯水タンクの水位が7～10cmの範囲にあり、一定していることを確認してください。
- 運転中は、本体を移動しないでください。漏水します。

★ 運転終了時は排水と乾燥を

- 吸込み空気中には様々な塵埃が浮遊し、加湿エレメントに付着します。これらはエレメント表面の流れにより洗われるため、循環水中には雑菌が徐々に増加します。必ず1日1回は排水運転を行い、排水してください。（自動排水を選択している場合は、自動で行います。）

4-1. 運転の手順

■ 加湿

運転前に給水経路の元栓と、本体の給水バルブが開いていることを確認してください。

※ 出荷状態では、給水バルブは閉まっています。

- 1 電源スイッチを“ON”にします。
設定湿度ランプ、および周囲湿度ランプが点灯します。
- 2 運転スイッチを1回押すと加湿ランプが点灯し、加湿運転を開始します。
- 3 加湿運転中に運転スイッチを1回押すと自動停止ランプが点灯し、自動停止運転を開始します。
自動停止運転は約30分です。加湿運転は、必ず自動停止運転または排水運転で終了してください。
※ 排水運転では、排水後自動的に自動停止運転を行います。
※ 自動停止運転では、エレメントの乾燥を行い、雑菌の増殖により臭いが発生することを防ぎます。
- 4 自動停止運転中に運転スイッチを1回押すと停止します。



電源スイッチ



運転スイッチ

■ 風向

- 1 風向スイッチを1回押すとスイングランプが点灯し、風向が左右に変わります。
- 2 スイングランプ点灯中に風向スイッチを1回押すと風向が一定方向となります。



風向スイッチ

■ 風量

加湿運転および自動停止運転中に風量切替スイッチを押すと風量が切り替わります。
風量切替スイッチを押すごとに、[標準] → [パワフル] → [標準] → [ソフト] と点灯し、風量が変わります。
お好みの風量でお使いください。

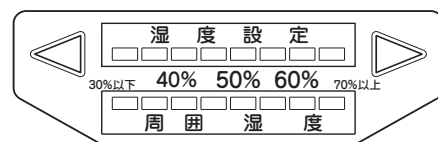


風量切替スイッチ

■ 湿度設定

- 1 ▷を押すと湿度設定が上がります。
- 2 ◁を押すと湿度設定が下がります。

- ① 湿度設定範囲は、35%～65%です。
- ② 周囲湿度が湿度設定値を超えるとファンが停止します。
- ③ すべての湿度設定ランプが点灯すると連続して加湿運転を行います。



湿度設定スイッチ

■ 排水

- 自動排水を選択している場合は、自動排水完了後に給水を行い加湿運転を行います。(自動停止運転は行いません。)
- 自動排水を選択している場合に以下の操作を行うと、排水完了後に自動停止運転を行った後、停止します。

- 1 電源スイッチを“ON”にします。
- 2 メンテナンススイッチを1回押します。排水ランプ(緑)が点滅し、数秒後に点灯して排水運転を開始します。排水運転は約5分ほどで終わり、自動停止運転に切り替わります。



- 3 下扉を開け、排水タンクの水を捨てます。排水タンクおよび排水ホースを元の位置にもどします。(外部へ排水している場合は、必要ありません。)排水運転が終わると、排水ランプ(赤)が点滅し、自動停止運転を行った後、停止します。

※ 自動停止運転中に排水タンクを取り出すとオーバーフローランプが点滅します。排水タンクをもどした後、運転スイッチを押すとランプは消えます。

※ 自動排水の時、この操作を行うと、連続運転をしないで自動停止します。

■ 清掃

- 1 電源スイッチを“ON”にします。
- 2 メンテナンススイッチを2回押します。清掃ランプ(緑)が点滅し、数秒後に点灯して清掃運転を開始します。清掃運転は約10分ほどで終わり、排水運転に切り替わり、自動停止運転を行った後、停止します。

- 3 排水運転が終わった後、下扉を開け、排水タンクの水を捨てます。排水タンクおよび、排水ホースを元の位置にもどします。(外部へ排水している場合は、必要ありません。)

※ 清掃運転の前に排水運転を行うと、効果的です。

※ 自動排水の時、この操作を行うと、連続運転をしないで自動停止します。

5 点検方法



警告

- 点検、清掃作業の前に電源プラグを抜いてください。感電のおそれがあります。
- 内部電気部品には水をかけないでください。感電のおそれがあります。

5-1. 排水運転(1日1回、必ず行ってください。自動排水を選択している場合は、自動で行います。)

5-2. 清掃運転(月に最低1回、実施してください。)

5-3. フィルタの掃除(汚れが目立つようになった時、実施してください。)

- 1 保守扉を開けて、フィルタを左に引き抜いて、汚れを掃除機などで吸い取ります。水跳び防止フィルタは、一度持ち上げてから、下を手前に引き出します。
- 2 汚れがひどい場合は、中性洗剤などで洗浄します。汚れが取れない場合は、交換してください。
- 3 フィルタを元の位置に確実に取りつけて、保守扉を閉めます。(保守扉が開いていると扉開きのランプが点灯し、運転を停止します。)

5-4. 貯水タンク網の清掃(月に1回、実施してください。)

- 1 上扉を開けます。
- 2 散水管を取り付けている2ヶの樹脂ねじを外します。
- 3 散水管を引き出します。
- 4 水跳び防止フィルタ、加湿エレメントを取り外します。
- 5 クリップを外し、貯水タンク網を取り外します。
- 6 貯水タンク網のゴミを取り除きます。
- 7 貯水タンク網、水跳び防止フィルタ、加湿エレメント、散水管を元にもどします。

5-5. 給水バルブフィルタの清掃(月に1回、実施してください。)

- 1 給水バルブのコックを開けて止水します。
- 2 給水バルブのコックと反対側を開けます。
- 3 フィルタを取り出し、ゴミなどを取り除きます。
- 4 フィルタを元の位置に戻し、しっかりとネジを締めます。

6 定期点検

- 定期的な保守、点検は長時間、効率よく快適にご利用いただくために是非とも必要です。
排水および清掃のランプ（赤）が点灯したら、速やかに排水運転、清掃運転を行ってください。
フィルタおよび貯水タンク網の掃除は定期的に汚れを確認し、適宜行ってください。

- 最良の状態での運転を行うためには定期的な部品交換が必要です。通常のお手入れとは別に定期点検整備をお勧めします。
- 定期点検整備およびメンテナンス契約は、お買い上げの販売店、またはお近くの弊社営業所にご相談ください。

■ 部品交換基準

年稼働時間：960 時間の時（8 時間 / 日 × 30 日 × 4 ヶ月）

No.	部 品 名	交換の目安	No.	部 品 名	交換の目安		
1	加湿エレメント	1 年	11	ポンプ	3～5 年 約 4800 時間		
2	湿度センサ	約 960 時間	12	給水弁			
3	フィルタ	2～3 年 約 2880 時間	13	三方弁			
4	水跳び防止フィルタ		14	各種センサ			
5	給水バルブフィルタ			・フロートスイッチ			
6	ボールタップ弁パッキン、電磁弁			・排水タンク O.F. センサ			
7	散水管			・フロースイッチ			
8	ゴム部品		15	送風ファン		5～10 年 約 9600 時間	
	・散水管ゴムブッシュ			16			風向可変モータ
	・三方弁 Oリング						17
・水ストレーナホース	・制御基板						
9	ホース類		・表示基板				
	・給水弁ホース	・電源基板					
	・タンクコックホース	※ 部品の交換は、アワーメータの積算時間を参考にしてください。					
	・ポンプホース						
	・フロー SW ホース						
・散水ホース							
・排水ホース							
10	フロート（排水タンク）						

7 故障・異常時の処置

下表の処置方法が「販売店に連絡」の場合、または、処置方法に従っても具合の悪い場合は、お買い求めの販売店、または、最寄りの弊社営業所（巻末参照）へお知らせください。その際に、製品の異常の状態と製品の型式名、製造番号をお知らせください。

● アラームの表示

表示ランプ（赤）	内 容	処 置 方 法
水切れ	● 水が流れない	● 給水バルブ、給水コックを開く ● 貯水タンク網の詰まりを取り除く
オーバーフロー	点滅の場合 ● 排水タンクが外れている ● 排水タンクが満水	● 排水タンクをしっかりとめ込む ● 排水タンクの水を捨てる
	点灯の場合 ● 貯水タンクが満水	● 排水運転を行う。その後、加湿運転を行い、貯水タンクの水位が 7～10cm の範囲になく上昇する場合は、ボールタップパッキン、電磁弁の詰まりを点検する
弁異常	● 三方弁が切り替わらない	● 販売店に連絡する
排 水	点滅の場合 ● 排水運転終了のお知らせ	● 排水タンクの水を捨て、元の位置に戻し、運転スイッチを押す
	点灯の場合 ● 8 時間、加湿運転したので排水運転をして頂くためのお知らせ	● 排水運転を行う
清 掃	● 180 時間、加湿運転したので清掃運転をして頂くためのお知らせ	● 清掃運転を行う
扉開き	● 保守扉が開いている	● 扉を閉める

● アラーム表示以外の異常

現 象	原 因	処 置 方 法
開梱時および運転初期に臭いがする	● 加湿エレメントの初期の臭い	● 2～3日使用しても臭いが消えない場合は、清掃運転を2～3回行う
スイッチを入れてもファンやポンプが動かない	● 主電源が入っていない	● 電源プラグを確認する ● 電源スイッチをONにする
風量が少ない	● フィルタの目詰まり	● フィルタを掃除する
湿度が上がらない	● 窓や出入り口の開閉が多い ● 加湿能力に対し、部屋が広い	● 適用床面積を確認する
湿度表示があていない	● 本体右側の空間が十分にとられていない ● 湿度センサに埃が付着 ● 被水や溶剤の付着、経時変化によるズレ	● 湿度センサ付近は30cm以上空間をとる ● 湿度センサ付近の埃を取る ● 湿度センサを交換する
本体からの水漏れ	● 排水ホースが外れている ● ニップルと給水ホースとの締付不良 ● 本体が水平に保たれていない ● 循環経路の不良	● 排水ホースを排水タンクにしっかりと差し込む(外部へ排水している場合を除く) ● 漏水部の接続をやり直す ● 本体を水平にする ● 販売店に連絡する
振動や騒音の発生	● 吐出ケースのネジが緩んでいる ● 保守扉、または下扉が開いている	● ネジをしっかりと締める ● 扉をしっかりと閉める
不快な臭いがする	● 加湿エレメントに雑菌が繁殖している	● 清掃運転を数回行っても取れない場合、加湿エレメントを交換する

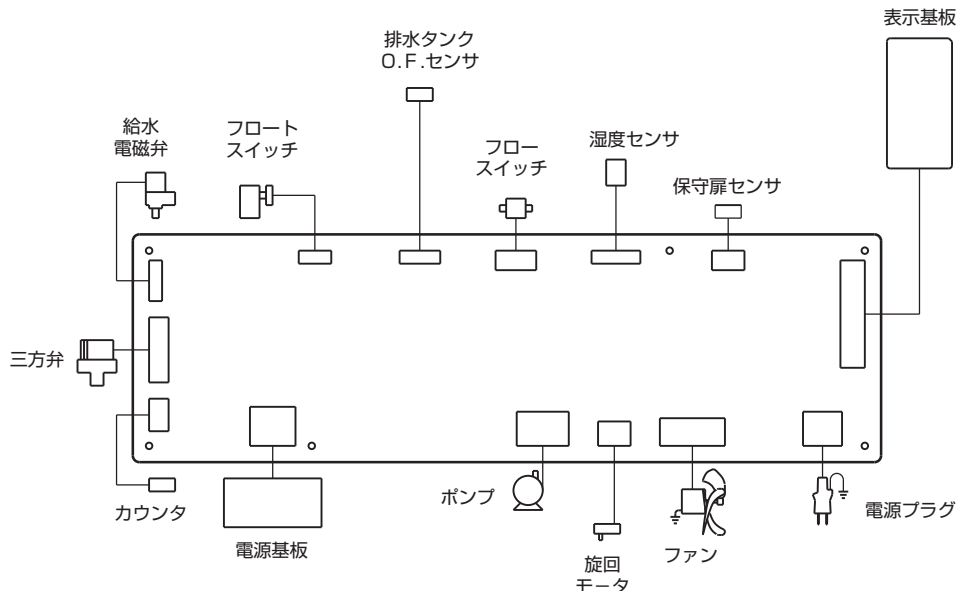


8 仕 様

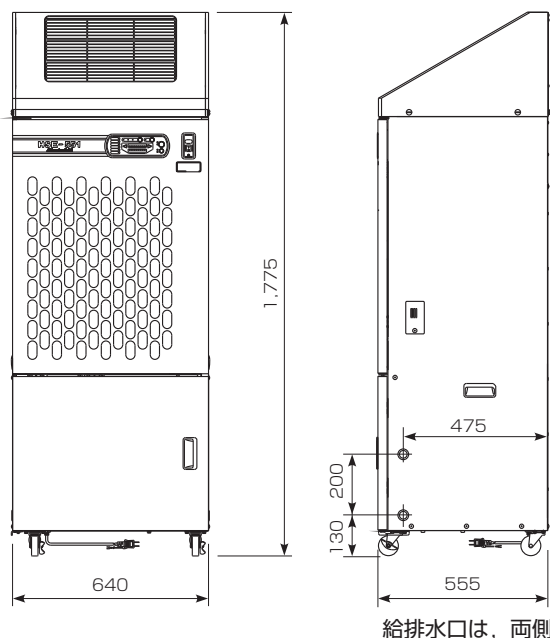
型式	HSE551	
電源	AC 100V	
加湿量 (kg / h)	6.0 / 6.3	(50Hz / 60Hz)
消費電力 (W)	218 / 282	(50Hz / 60Hz)
風量 (m ³ / min)	ソフト：24 / 20, 標準：29 / 29, パワフル 34 / 39 (50Hz / 60Hz)	
安全装置	水切れ検知, 貯水タンクオーバーフロー, 排水タンクオーバーフロー 保守扉インターロック, 送風ファン内蔵サーマル, 漏電ブレーカ	
排水切換 (自動 / 手動)	自動排水, 手動排水の選択 (2. 機能 参照)	
運転音 (dB)	62	
外形寸法 (H, W, D)	1,775 × 640 × 555	(mm)
質量 (kg)	82	

※ 加湿能力は、入り口空気条件が温度 23℃ / 相対湿度 40%のときの計算値

● 配線図



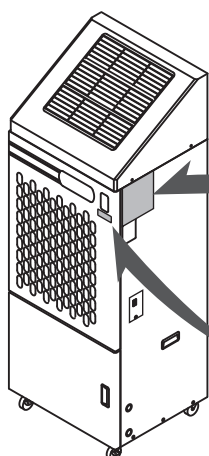
● 外形寸法



単位：mm

9 安全ラベルの一覧

安全ラベルは、製品を安全にお使いいただくための重要なものです。はがしたり、汚したりしないでください。ラベルの文字が消えたり、読みにくくなった場合は、販売店に注文して貼りかえてください。



乾燥注意ラベル
 加湿運転終了時には、自動停止で終了してください。加湿エレメントが乾燥しないと、臭いが発生することがあります。

取扱注意ラベル

△ ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。	
△ 警告	1. 吹き出しに指や物などを絶対に入れないでください。 2. 煙や、おまじゆのかかる場所では使用しないでください。 3. 改造しないでください。 4. 修理工のため、アースは必ず取り付けご使用ください。
△ 注意	1. 必ず水道水をご利用ください。井水や工業用水を使用すると、臭気発生のおそれがあります。 2. 右側面にある湿度センサは30cm以上の空間をとってください。 3. 空気が少ないと、湿度を検知できない場合があります。 4. 本体の底心から約10cm以上空気を抜くください。 5. 空気が少ないと過熱の原因となり、故障するおそれがあります。 6. 本体は必ず水平な場所に設置してください。 7. 傾きが5度以上になると漏水の原因となるおそれがあります。 8. 加湿運転終了時には、必ず自動停止で終了してください。 9. 自動停止で設定しメントが乾燥しないと、臭気発生のおそれがあります。臭気発生のおそれがあります。加湿運転終了時には、必ず自動停止で終了してください。加湿エレメントが乾燥しないと、臭いが発生することがあります。
△ 運転注意	1. 給水経路の汚れが詰まっていることを確認してください。 2. 電源スイッチをONにします。 3. 運転スイッチを1回押すと加湿運転を開始します。 4. さらに1回押すと自動停止運転となります。 5. ポンプが停止し、約30分でファンが停止します。 6. 自動停止運転中に、運転ランプが点灯し、運転が停止します。 7. 保守扉が開いていると加湿ランプが点灯し、運転が停止します。 8. 異常が発生した場合はアラームのランプが点灯し、自動停止運転となります。 9. 異常を直した後、運転スイッチを1回押すとアラームのランプは消えます。 10. < を押すと加湿設定を下げます。 11. > を押すと加湿設定を上げます。
△ 運転注意	1. 風向スイッチを1回押すとスイングランプが点灯し、風向が左右に変わります。 2. さらに1回押すと風向が一定方向となります。 3. 加湿運転中に加湿切替スイッチを押すとランプが点灯し、風量が変化します。 4. お好みの風量を運転してください。 5. メンテナンススイッチを1回押すと排水ランプが点滅し、数秒後に点灯して、排水運転を開始します。 6. 排水ランプが点灯すると、排水タンクの水を必ず全て排水してください。タンク内の水を空にする。個体や常設物損傷により、臭気発生のおそれがあります。 7. 排水運転終了時には給水経路の汚れを拭き取ってください。休止中の予備せぬ排水を防止します。

50810-201046

50810-201066

10 保 管

※ 水が機体の外に漏れる場合があります。タオルなどを用意して十分注意して作業してください。

- 水道の蛇口を閉めて、給水ホースを外します。
- 貯水タンク、および排水タンク内に残った水を完全に排水します。
- 加湿エレメントは自動停止運転を行い、十分に乾燥させます。
- 電源スイッチを切ってから、電源コードのプラグをコンセントから抜きます。

※ 水が漏れる作業です。タオルなどをご用意ください。

- 下扉を開け、給水弁ホースを外し、水を抜きます。
給水バルブを開け、給水弁内の水も抜きます。

※ 機体内の水を十分に抜かないと、凍結により破損する場合があります。

- タンクなどの汚れは、中性洗剤で拭き取ってください。
- 保管は屋内で、湿気の少ない場所にしてください。

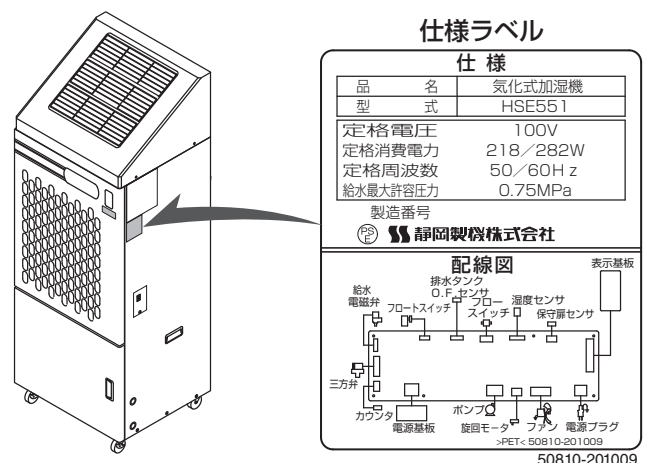
11 アフターサービス

- 修理サービスを依頼される前に「故障・異常時の処置」をご覧ください。もう一度ご確認ください。それでも異常のある場合は、お買い求めの販売店または、最寄りの弊社営業所（下記参照）にご相談ください。なお、ご相談の際には、製品の異常の状態と製品の型式名、お使いの製品の製造番号をお知らせください。
製造番号は、製品の側面に貼付してある「仕様・配線図ラベル」にしるしてあります。（右図参照）

- この製品は、1年間の無償保証書がついておりますので、大切に保管してください。なお、保証期間内に修理を依頼される場合は、保証書を添えてください。

- 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

- (1) キャスタ、フィルタ、水跳び防止フィルタ、加湿エレメント、湿度センサ、以上の消耗品
- (2) 誤使用による故障
例) 電源 200 V 使用による電気部品の焼損
- (3) 火災、浸水、落雷などの災害によるもの
- (4) 腐食性ガスの発生する場所で使用した場合の部品の腐食
例) 畜舎などアンモニア等の発生する場所
- (5) その他、取扱説明書に記載してある以外の使い方による故障



- 無償修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって性能が維持できる場合は有償修理いたします。
この製品の補修性能部品保有期間は、生産打ち切り後6年です。
(1) この期間は経済産業省の指導によるものです。
(2) 性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

製品保証書 [保証期間 1年]

型式：HSE551	製造番号：—
お客様記入欄	販売店様記入欄
お名前	販売店様名称 印
ご連絡先	
ご購入日	販売店様連絡先

弊社は、上記の製品単体について、下記の通り保証いたします。

- | | |
|--|---|
| (1) 保証期間中に、正常な使用状態において生じた、製造上の責任による故障又は損傷につきましては、無償修理をいたします。 | (3) 下記の場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。 |
| 尚、無償修理において交換された旧部品は弊社の所有物となり、弊社が任意に処分できるものとしますのでご了承ください。 | (イ) 保証書の提示がない場合 |
| (2) 次の場合は、保証期間中でも「有償修理」といたします。 | (ロ) 製品の性能等が、弊社規格内である場合 |
| (イ) 取扱説明書に記載してある以外の使い方、誤った使用、過失及び整備、保管の不備により生じたと認められる故障等 | (ハ) 弊社製品の使用又は使用できなかったことによる二次的損害(逸失利益の損害、事業の機会の損失、その他金銭的損害等) |
| (ロ) 納入後の転倒、衝撃、及び改造や純正以外のオプション、部品の使用が原因で生じたと認められる故障等 | (4) この保証書は、お買上げ時の領収書などの購入履歴のわかるものと併せて保管してください。 |
| (ハ) 火災、地震、台風、落雷等の災害により生じたと認められる故障等 | (5) お客様がご記入されました個人情報、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。 |
| (ニ) 使用損耗や経年変化により発生する現象 | (6) 保証書を紛失された場合の再発行はいたしかねますのでご注意ください。 |
| (ホ) ご購入の販売店や弊社指定のサービス店以外で修理されて故障した場合 | (7) 本機の保証は日本国内で使用される場合に限りです。 |
| (ヘ) その他上記に準ずるもの | 【 This warranty is valid only in Japan. 】 |

静岡製機株式会社



● 製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買上げの販売店もしくは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。

静岡製機株式会社 URL : <https://www.shizuoka-seiki.co.jp/>

北海道営業所	〒007-0804	札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号 TEL (011) 782-5294 (代) FAX (011) 782-8258	関西営業所	〒661-0032	兵庫県尼崎市武庫之荘東2丁目10番8号 TEL (06) 6432-7880 (代) FAX (06) 6432-7487
東北営業所	〒989-6136	宮城県大崎市古川穂波3丁目1番14号 TEL (0229) 23-7219 (代) FAX (0229) 21-1464	九州営業所 駐在	〒835-0004	福岡県みやま市瀬高町山門1841-1 TEL (0944) 88-9136 FAX (06) 6432-7487
関東営業所	〒175-0094	東京都板橋区成増1丁目17番2号 TEL (03) 6904-3786 (代) FAX (03) 6904-0302	営業本部 産機企画課	〒437-1121	静岡県袋井市諸井1300 TEL (0538) 23-2825 FAX (0538) 23-2890
中部営業所	〒437-8601	静岡県袋井市山名町4-1 TEL (0538) 42-3222 (代) FAX (0538) 42-3206			